



ふっこう訓練通信

令和7年3月／発行：葛飾区都市整備部都市計画課（担当：田上・石塚）／電話：03-5654-8382

第2回 柴又地区震災復興まちづくり訓練を実施しました！

12月14日（土）14時から「柴又地区 第2回 震災復興まちづくり訓練」を開催しました。

ふっこう訓練通信第3号では、「第2回訓練」の様子をお伝えします！

当日の資料などは、区のホームページでご覧いただけます。

トップページ＞くらし・手続き＞安心・安全＞防災・国民保護＞震災復興まちづくり訓練について

ホームページへの
アクセス
はこちらから

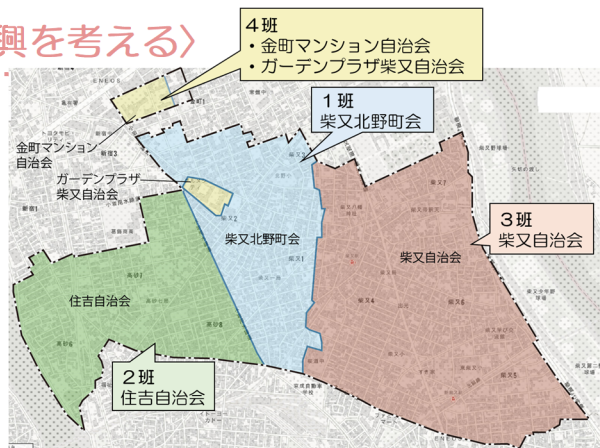
第2回訓練（令和6年12月14日）

「被災後の住まいの確保、復興方針を話し合おう」の概要

第2回訓練では、地域の方々22名にご参加いただき、訓練用の「柴又地区の被害想定」を確認したあと、被災後の住まいの確保や都市の復興方針などについて、グループワークで話し合いました。

(1) グループワーク①〈被災後の「住まい」の復興を考える〉

参加者が4つのグループ（右図）に分かれ、被害状況や世帯設定が異なる被災者になりきり、「住まいの復興」について考え、被災後の仮住まいや自宅の再建方法、復興課題について意見交換をするグループワークを行いました。主なご意見は下記にまとめました。



世帯設定と主な意見

＜凡例＞【基本情報】

①世帯構成 ②職業 ③建物 A:応急危険度判定 B:被害状況

【1班】東京 一子(70)

- ①なし
- ②無職
- ③戸建て住宅
（木造2階）築40年
A:危険（全焼）
B:全壊



1班の主な意見

- 自宅が全焼したため、避難所→仮設住宅で仮住まいし、災害公営住宅（区・都営住宅）で住まいを再建する。

【2班】東京 太郎(72)

- ①妻(70)
- ②無職 町会・自治会長
- ③戸建て住宅
（木造2階）築40年
A:要注意
B:半壊



2班の主な意見

- 修理等を行い可能な限り持家で住まいの再建を行う。
- 地域に愛着があるため、住み慣れた地域に住み続けたい。

【3班】東京 一郎(58)

- ①父(83) 母(81)
妻(57) 娘(23)
- ②生鮮食品店経営
- ③店舗兼住宅(木造2階)
築30年
A:危険
B:全壊



3班の主な意見

- 地域に顔見知りが多いため、避難所→仮設住宅で仮住まいを過ごす。
- 商店を続けるため、地区内で持家を建設 or 購入する。

【4班】東京 花子(57)

- ①なし
- ②会社員
- ③分譲マンション
（4階）築20年
A:調査済
B:一部損壊

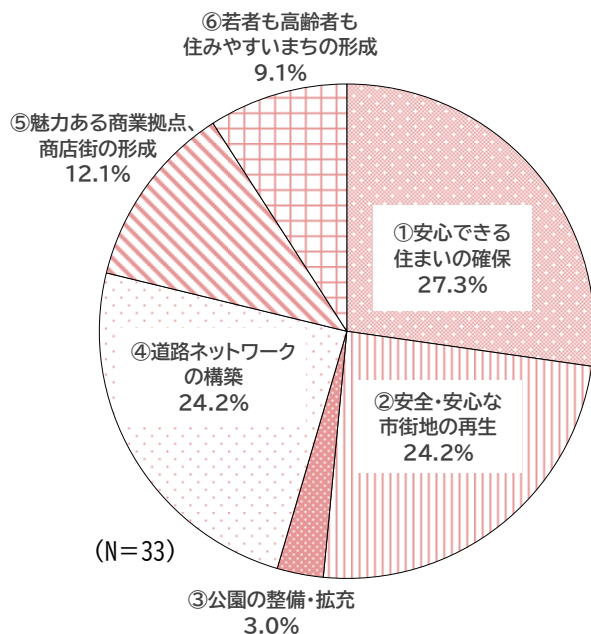


4班の主な意見

- マンション住民同士の連絡体制が構築されているため、情報を集めながら、在宅で仮住まいし、マンションの改修を検討する。

(2) グループワーク②〈被災後の「都市」の復興を考える〉

参加者が、柴又地区で重視したいと考える「復興まちづくり方針」をワークシートの選択肢から選び、選んだ理由を意見交換しました。主な意見は以下の通りです。



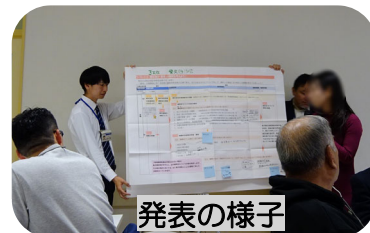
選んだ理由(※番号は左グラフの選択肢に対応しています)

- ①とにかく安全に住める住まいの確保が大事なため。
- ②再び被災した際に、同じ被害が起きないようにするため。
- ②不燃化対策などまちの課題を解消するため。
- ④消防車等の緊急車両が通れるようにするため。
- ④避難所に安全に避難できるようにするため。
- ⑤柴又地区に多くの人に来て、経済が回るまちにしたい。
- ⑤帝釈天を地区の魅力あるシンボルにしたい。
- ⑥子育てしやすいまちにするため。

柴又地区の特徴



グループワークの様子



発表の様子

(3) 講評 東京都立大学 中林 一樹 名誉教授

被災後、避難所や仮設住宅等での仮住まいの生活が長く続くと、日常生活の変化も伴い持病を悪化したりして、命を落とされる方(災害関連死)が近年の災害では多くなっています。特に災害関連死の8〜9割は高齢者と言われています。これまでの防災訓練などでは、被災して避難所に行くことまでは考えても、仮設住宅で仮住まいやその後の自宅の再建をどうするのか、そこまで考えられていない人が多いように思います。どのように住まいを復興していくのか、平時から行政ともコミュニケーションを取り、今のうちから検討して備えておくことが重要です。

被災した後、まずは日常生活をどのように取り戻すか、そして住まいの再建を含めた家族の復興やまちづくりの復興について検討していくことになりますが、地震保険の加入の有無により大きく差が生まれる可能性があります。地震保険に入っていると、家を再建する/しないにかかわらず保険金が下りるため(※プランによって異なります)、近年の復興例では保険金で家を再建するだけでなく、保険金とともに土地を売却してそれらを生活費として、都営住宅や賃貸住宅に入ったり、ご高齢の方であれば施設に入る例がみられます。

地震等の自然災害は予知することはできません。今後被災しても、皆さんが柴又愛をもって、柴又地区に残って家を再建したり公営住宅などで生活を続けて、どんなまちに復興していくのかを検討できるよう、「柴又地区 震災復興の進め方」にまとめられている地区の特徴や復興手順を確認して、自身やまちの復興について改めて考えてみてください。ご近所や知り合いの方々にも、ぜひ本訓練や事前復興について伝えていただき、多くの方に被災後のまちの復興について考えていただきたいと思います。



震災復興の進め方とは

震災復興の進め方は、柴又地区震災復興まちづくり訓練の成果や柴又地区の震災復興手順等をまとめたものです。

大規模な震災などがあった場合には、震災復興の進め方をたたき台として、地域のみなさんと葛飾区が協働して復興を進めていくことになりますので、内容をご確認いただき、ご自宅で保管していただくようお願いいたします。

【目次】

- ・はじめに
- ・被害想定について
- ・柴又地区の復興の資源と課題
- ・柴又地区の震災復興手順
- ・(コラム) 発災後の避難行動と仮住まい
- ・(コラム) 液状化被害への対応と建築時の助成
- ・普段からできる取組をチェック!